

不動産の価値はコミュニティで決まる

甲斐徹郎著、学芸出版社、1,900円＋税

著者は建築・まちづくりプロデューサーで、チームネット代表、関東学院大学客員教授を務める。本書のきっかけは、環境と共生する住まいとまちづくりを実現するため、1997年に「世田谷に森をつくって住もう」と呼び掛けて反響を呼んだ「経堂の杜」の経験に基づいている。

土地活用とは収益を生み出す行為である一方、見方を変えると地域の環境とコミュニティに大きく影響する行為でもある、と指摘。そうした観点から地域が時間とともに豊かになっていくような土地利用のあり方を提示。不動産経営とコミュニティを、価値創造という視点から有機的につなぎ合わせることを試みた。不動産をもっとワクワクするものに、この思いのもと「コミュニティベネフィット(共有価値)」の発想で大家、建築家、事業者、住人が実践する6つの不動産活用法を紹介している。

